



ひつじを抱いた素敵な女性



マチュピチュ



子どもたちの素敵な笑顔



ペルー公式表敬訪問



【写真説明】

- ① ラ・モリーナ国立農業大学前。
- ② ラ・モリーナ国立農業大学にて、キヌア(栄養価が高く、土地が痩せていても育つ穀物)で作られたパンやケーキの試食を行いました。持っている大きなパンはお土産として頂きました。
- ③ 農業大学の学生からアンデスの収穫祭踊りを披露してもらいました。
- ④ 国際ジャガイモ研究所前。
- ⑤ 約4,200種類あるペルーのジャガイモの一部。
- ⑥ ペルー日系人協会で、「友愛」というペルーと日本に関わる内容が書かれた本を頂きました。
- ⑦ ペルー商工会議所で今回の訪問にご尽力いただいたフリュ・サラサラ会長と。
- ⑧ タルマ市で剣淵町代表訪問団6名全員に市民栄誉賞が授与され、市長と記念写真。
- ⑨ タルマ市のでんぶん工場。



ビクーニャ



アルパカ



ペルーのジャガイモ

剣淵町の姉妹都市ペルー「パルカマヨ区」へ



【写真説明】

- ⑩ パルカマヨ区の看板。
- ⑪ パルカマヨ区に到着。横断幕には「パルカマヨへようこそ パルカマヨ榮譽賞」と日本語で書かれています。
- ⑫ パルカマヨ区ではこの日学校を休みにして、子どもたちから大歓迎を受けました。
- ⑬ パルカマヨ区で振る舞われた料理。中央の料理は、クイという食用モルモット（テンジクネズミ科）で、ペルーでは伝統的な食材です。
- ⑭ パルカマヨ区で子どもから花束の贈呈がありました。
- ⑮ ふるさと絵本「ムーニャとほしのたね」を、パルカマヨ区長ギジェルモ・バルハス氏に渡す佐々木町長。
- ⑯ ギジェルモ・バルハス区長と町旗の交換を行いました。
- ⑰ リマにある野口英世学校で子どもたちから歓迎を受けました。
- ⑱ 野口英世学校の子どもたちとダンスを踊り、交流しました。

【姉妹都市ペルー・パルカマヨ区訪問記】

平成21年10月20日に、びばからスキー場跡地の有効活用策としてアルパカ牧場が誕生しました。

このオープニングセレモニーに当時の在日ペルー共和国大使、フアン・カルロス・カプニヤイ全権大使が訪問されたこと等がご縁となり、平成23年7月6日、剣淵町とペルー共和国フニン県タルマ郡パルカマヨ区は、姉妹都市提携を行いました。日本・ペルー両国にとって、自治体同士の提携は歴史上初めてのことであり、意義ある国際交流の一つとなりました。今回の公式訪問は、本年度の剣淵町とペルーの交流事業として、パルカマヨ区と日系人社会層等の交流を行うものでした。

公式訪問は、町を代表し、佐々木町長、大河議長、後藤北ひびき農協副組合長、井下ふるさと大使、瀬野商工会理事、早坂総務課長の6名が参加し、6月4日から14日までの11日間ペルーに滞在しました。成田空港からアメリカジョージア州アトランタ空港を経由し、リマ空港に到着するまで約21時間を超える空の旅となり、日付変更線の関係もあり、出発同日の6月4日午後11時過ぎに到着しました。空港にはペルー外務省職員の出迎えがあり、入国審査も優先的に案内され、国を挙げての歓迎をしていただきました。

次の日、日本の季節とは真逆の初秋で肌寒く感じる午前8時にホテルを出発し、ラ・モリーナ国立農業大学を訪問しました。大学では、学長が東京農業大学や福井大学との交流がある事や、剣淵町との交流を考えている事を話されており、これを受け佐々木町長からは、同感であり、交流方法を考えたいと話されました。持参した大きな前掛けを瀬野さんがプレゼントして懇談を終了しました。同日、アンデス穀物研究所で高栄養価値物キヌアの試験状況や、国際ジャガイモ種苗研究所で約4,200もある種の研究や原種保存状況を視察し、その後、在ペルー日本大使館の福川特命全権大使と懇談をしました。夕方はペルー日系人協会役員との懇談で、出席者は日系3〜4世が多く、祖国日本への思いと、日系ペルー人としての誇りと日本とペルー友好の絆を話されていきました。佐々木町長からは敬意と友好を深める思いを伝えました。

滞在期間中、日本・ペルー商工会議所での懇談や、世界ペルー人協会フリュ・サラサラ会長のほからいによる政府高官との会談等、国をあげての歓迎に敬服いたしました。

後日、早朝8時にホテルを出発し、高度4,800mのテクリオ峠を越えてタルマ市に向かいました。道中、大型トレーラーやトラックが混んでおり、峠の手前で3時間余りの渋滞に遭遇しました。タルマ市では、市長や近隣の町長が、3時間遅れの午後4時過ぎまで到着を待ってください歓迎のセレモニーを開いてくれました。その中で、タルマ市に対する友好と表敬訪問の功績に対して、剣淵町代表訪問団6名全員にタルマ市民栄誉賞の賞状とメダルを授与していただきました。また、タルマ市は、姉妹都市提携の申し入れを文書にて佐々木町長に手渡ししました。佐々木町長は、帰国後、町民のみなさまのご意見を伺い判断していきたくと話されました。

翌日のパルカマヨ区訪問の日は、タルマ市から未舗装の30kmあまりの道をワゴン車に揺られ1時間半かけて進みました。途中の青空が素晴らしく、岩山とのコントラストは空気が薄いこともあり、くつきりと眺望できました。パルカマヨ区の市街地区にさしかかると、たくさん子どもたちが日本とペルー国旗の歓迎小旗を振りながら「ケンブチ・ケンブチ・・・」とコールされ、感動的な出迎えをうけました。広場に案内され、歓迎のセレモニーが催され両町長の挨拶では友好の確認がそれぞれ伝えられました。パルカマヨ区では、今回が日本人初の訪問であり、子どもたちの出迎えは学校を休みにしてのものとかさされ、心からの熱烈的歓迎に感動するばかりでした。澄んだ空気と1万年前からの文化を大切にする国はゆっくりと時間が流れていました。

今後は、パルカマヨ区をはじめ、ペルー日系人社会との交流を考えたいです。どのような交流へと発展させることができるか町民のみなさまと考えていきたくと思います。